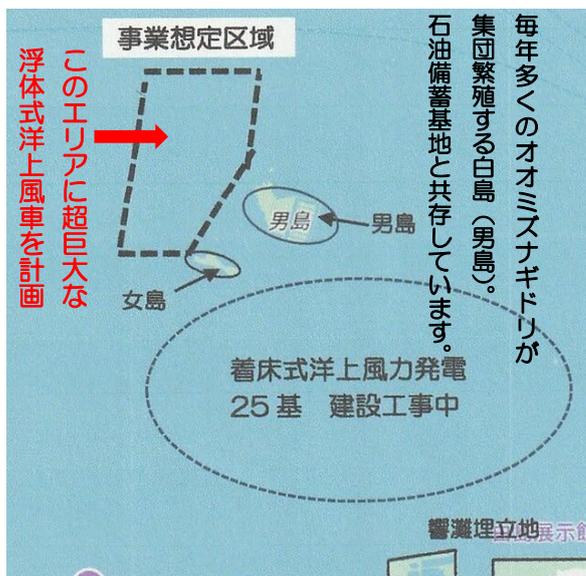


署名活動にご協力をお願い

## なぜ白島の近くにわざわざ計画するのか！

またもや、同じところに超巨大な浮体式洋上風力発電計画！

2019年に計画された福岡県北九州市若松沖の白島（しらしま）近くの洋上風力発電2基は、白島で集団繁殖するオオミズナギドリなどへの影響が懸念されたため、計画の見直しを求めています。コロナ禍の後、環境アセス中に計画が中止され、今回新たに計画されたのは・・・超巨大な風車です。



【事業者】(株) グローカル (広島県呉市)  
【出力規模】 3万kw (1万～1万8千kw 2基～3基)

バージ型3枚羽根浮体式洋上風力発電  
出典：イデオル社 (フランス)

2025年1月に事業者から説明を受け、2月14日から環境アセス手続きが始まりました。日本野鳥の会北九州支部は、白紙撤回もしくは実効性ある対策を求める意見書を3月8日に提出しました。

2019年計画時、その時の環境審査会で委員から「なぜ白島のすぐ近くにわざわざ計画するのか！」「漁業関係者が同意すればいいという問題ではない！」との発言があったことを思い出します。「計画を中止しなさい」と言うことができない審査会委員さんは、内心怒っていたのでしょう。

さて、今回の計画を白紙撤回に追い込むのは容易ではないでしょうが、しかも北九州市が事業協力という形で後押ししているのではなさらず。北九州市は生物多様性の重要性を掲げていますが、どんな助言をするのでしょうか。白島のオオミズナギドリやミサゴの衝突防止策を協議するなどとはとても期待できません。だからこそ、最初から計画の白紙撤回、もしくは、野鳥が近づいたら自動停止、そして、オオミズナギドリが白島を出入りする時間帯は運転停止を求めていくしかありません。



署名活動へのご協力をお願いいたします。

**「風車の被害に遭い、帰らぬ親鳥を待つひな鳥の悲惨な状況は防がなければなりません！」**

- ◆署名簿の第一次締め切りを6月末としますが、その後も署名簿が集まり次第、事業者に提出します。
- ◆署名簿送り先・問い合わせ先：〒805-0067 福岡県北九州市八幡東区祇園4丁目1の2  
前田伸一 Tel. 093-661-4998 Eメール：shijukarakara@gmail.com

株式会社グローバル代表取締役 奥原征一郎 様

日本野鳥の会北九州支部 支部長 川崎 実

(仮称)北九州市白島沖浮体式洋上風力発電事業

## 計画の白紙撤回もしくは実効性ある対策の実施を求めます。

### 【白紙撤回もしくは実効性ある鳥類への影響回避策の採用を求める理由】

福岡県北九州市においては希少な島嶼地域である響灘海域の白島（しらしま・鳥獣保護区特別保護地区）に近接するこの度の計画は、風車の大きさが最大高さ約 300m、回転直径約 290mと巨大であり、設置基数が 2～3 基と比較的少ないとはいえ、白島で集団繁殖するオオミズナギドリをはじめ、複数営巣するミサゴや、冬期に多数渡来するカモメ類、ウミウ、ヒメウなど、当海域に生息する鳥類が回転するブレードに接触・死亡するリスクが高く、鳥類への配慮を欠いた計画である。

さらに、貴社が 2019 年に同様の海域に着床式風力発電を計画した際（※）、当会や環境審査会委員から厳しい意見が出たにもかかわらず、鳥類への積極的な配慮は見られず、今回再度同様の海域に計画することは、まさに分別の無い計画と言わざるを得ない。（※環境アセス中に計画中止）

よって、予防原則の上から、貴社は計画の白紙撤回をすべきである。もしくは、下記の実効性ある鳥類への影響回避策を採用し、実施すること。

1. 鳥類が風車に近づいたら自動的にシャットダウンするシステムを全機に採用する。  
(レーダーとローター自動緊急停止システムが組み合わされたシステムが必要)
2. 白島で集団繁殖するオオミズナギドリの離島時(採餌に出発)と帰島時(採餌から帰島)の時間帯に風車の運転を停止する。

### 【賛同団体】

公益財団法人日本野鳥の会 理事長 遠藤孝一 日本野鳥の会福岡支部 支部長 小野 仁  
日本野鳥の会筑豊支部 支部長 梶原剛二

～賛同署名欄～

氏 名	住 所（県名市町村までを自筆でお願いします）

署名は個人情報保護に留意し、集約したデータは当会で保管し、責任を持って事業者届けます。

<署名窓口> 〒805-0067 福岡県北九州市八幡東区祇園 4 丁目 1 の 2

前田伸一（日本野鳥の会北九州支部事務局） tel.093-661-4998